

# 北納だより

温故  
創新

義務教育学校 八女市立

上陽北納学園

JOYO-HOKUZEI compulsory education school

第5号 令和7年7月16日発行

文責 校長 武藤 健

令和7年度重点目標「目標達成に向かって粘り強く取り組む子供の育成」

## 第75回八女地区青少年弁論大会 ～社会を明るくする運動～

7月5日(土)、おりなす八女で第75回八女地区青少年弁論大会が開催され、本校からは9年生の牛島綾音さんが出場しました。『あいさつは心の言葉』という演題で堂々と発表し、優秀賞を受賞しました。以下に全文を掲載します。日常の「あいさつ」の大切さについて深く考えさせられる素晴らしい内容です。



### 『あいさつは心の言葉』

「おはよう」と家族や友達に。「こんにちは」と先生や地域の方に。「おねがいします」と部活の始まりに。そんな言葉を私はいつも意識することなく言っていました。

去年の4月から私は、生活専門委員として、毎週火曜日の朝八時から昇降口に立ってあいさつ運動に取り組んでいます。あいさつ運動初日のことです。私のあいさつに「おはようございます」と相手から返ってきた元気がないあいさつは、正直めんどくさいし、やりたくないと思っていた私のやる気のなさをそのまま映し出しているようでした。なんだか悲しい気持ちになりました。「おはよう」という言葉を交わしてはじまる1日が、あのあいさつで良かったのかなと、なんだか1日中もやもやした気持ちで過ごしました。その日の夜、父と一緒に犬の散歩に行きました。そこで会ったことのないおじいさんや外国人の方が「こんばんは」と明るく元気なあいさつをしてくれました。私も同じようなあいさつを自然と返すことができ、そして、嬉しい気持ちや充実感で心が満たされたのがはっきり分かりました。その瞬間、気づいたのです。「あいさつには人と人を繋ぐ力があるのではないか」これまでいく度となく「あいさつをしよう」「あいさつは大切」と言われ続けてきたことが、この時、はじめて私の体の中で実感を得たような気持ちでした。この出来事がきっかけとなり、私はあいさつ運動の目標を立てました。それは「明るく目を見てあいさつ」一見簡単に聞こえるかもしれませんが、しかし、「明るく」「目を見て」そのどちらも私にとっては高いハードルでした。なぜならそれまでの私は、仲の良い友達には目を見てあいさつができても学年が違う人や、あまり話したことがない人の、顔を見ることも、ましてや明るく声をかけることなど、恥ずかしくてうまくできなかったからです。この目標を立ててから私は特に意識して、文字通り「がんばって」あいさつを続けました。その結果、だんだんと自然にそれができるようになっていったと思います。次の火曜日、精一杯あいさつ運動をしていると、ある先生が「元気なあいさつだね」と言ってくださいました。その時、自分が意識して取り組んでいることが、周りの人にも伝わっているのだと嬉しくなり、目標を達成することができたように感じ「やってよかった!」と思いました。しかし、こちらがどんなに意識しても、返してくれたあいさつが、以前の私のようなやる気のない声だった人もいます。きっとその日の気分や何か事情があるのだと思います。心が暗く沈んで、元気がないように感じました。その時感じたのは、あいさつは一方通行ではだめで、相手を思っているものだという事でした。その日から私は相手の様子や気持ちを考えながらあいさつをしようと決めました。そういう意識であいさつを心がけると今までよりもさらに相手の顔や表情がよく見えるようになりました。声をかける前の相手の表情に目を向けると、今日は疲れているのかな、今日は元気そうだ、など相手の気分や心の中までも想像できるようになりました。あいさつを交わすだけで、相手のことを少し知ることができるよう、心と心で感じ合えるような、そんな感覚さえありました。

朝の昇降口で、相手の顔を見ながら、相手の気分を考えながら、明るくあいさつを交わすことができた日、私の心はすっきりした気持ちで満たされます。このあいさつ運動の経験を通して、私はたくさんの方に気づくことができました。何気なく、習慣で、発せられているあいさつの言葉には、実は自分の心を聞き、相手の心に近づき、人の心を繋ぐ力があると思います。

これからわたしはあいさつの素晴らしさ、大切さを忘れず、相手の気持ちを考えて、心からのあいさつを心がけたいと思います。みなさん、学校から、地域から、社会全体を、この「心の言葉」で繋いでいきましょう。

## 夏休みがはじまります！！ ～かけがえのない命を守るために～

まもなく、待ちに待った夏休みが始まります。子どもたちは、普段とは違う自由な時間の中で、家族とのお出かけや友達との遊び、新しい体験を楽しみにしていることでしょう。

一方で、夏休みは子どもたちが家庭や地域で過ごす時間が増える分、交通事故や水の事故、不審者被害、SNS のトラブルなど、思わぬ危険に巻き込まれる可能性もある時期です。学校では、夏休み前に「**自分の命は自分で守る**」ことの大切さを、子どもたちに繰り返し伝えています。加えて、心の安全にも目を向けていくことが大切です。最近では、年齢に関係なく、心の中に不安やつらさを抱える子どもが少なくありません。

子どもたちには、「つらいときは一人で抱え込まず、家の方や友だち、先生など、信頼できる誰かに話してもいいんだよ」と伝えています。命は、世界にたった一つしかない大切な宝物です。どんなときも、子どもたちが「自分は大切にされている」と感じられるように、私たち大人が寄り添い、見守ることが何よりも重要です。

ご家庭でも、普段と少し様子が違うかな？と感じたときには、ぜひあたたかい声かけをお願いします。「どうしたの？」「話を聞かせてくれる？」そんな一言が、子どもたちの心を支える大きな力になります。安全で、心も体も元気に過ごせる夏休みとなるよう、学校とご家庭とで力を合わせて子どもたちを支えてまいりましょう。

そしてまた、ひとまわり成長した皆さんと8月25日(月)に元気に再会できることを、楽しみにしています。



## ハハイオネ・エレメンタリースクール来校 ～心を繋ぐ国際交流～

7月10日(木) ハワイのハハイオネ・エレメンタリースクールの児童の皆さんが、本校を訪問してくださいました。遠く離れた海の向こうからの来校に、子どもたちは胸を躍らせ、笑顔で温かく迎えることができました。当日は、本校の9年生が箏の演奏を披露し、日本の伝統文化である茶道も体験していただきました。初めて触れる和の文化に、ハワイの子どもたちは目を輝かせながら真剣に取り組んでおり、本校の子どもたちにとっても、自国の文化の魅力を再認識する貴重な機会となりました。

交流の中心となったのは、5・6年生の子どもたちです。言葉や文化の違いを超えて、ジェスチャーや笑顔、プレゼント交換などを通じて、心と心がしっかりつながっていく様子がとても印象的でした。言葉が通じなくても、「伝えたい」「分かり合いたい」という思いがあれば、心は通じ合うということ、子どもたちは実感できたのではないかと思います。

これからの時代を生きる子どもたちには、異なる文化や価値観を理解し、尊重し合う姿勢がますます求められます。今回の国際交流を通して、「違いを楽しみ、違いから学ぶ」姿勢を身につけていってほしいと願っています。



7月9日(水)に八女市・福岡八女農業協同組合茶業部会・福岡県茶商工業協同組合流通部会より来校され、給茶機の茶葉贈呈式が行われました。伝統ある美味しい淹れ立ての八女茶を本校の児童生徒・教職員が飲めるのも皆様のおかげです。本当にありがとうございます。今後も、八女茶の魅力を各地に発信していきたいと思ひます。

